

大学の世界展開力強化事業（令和2年度採択）

令和3年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	宇都宮大学		
主たる交流先	アフリカ諸国	ケニア	
事業名	【和文】	アフリカの潜在力と日本の科学技術融合によるSDGs貢献人材育成プログラム	
	【英文】	Programme for Developing Human Resource to Contribute to SDGs by Merging African Potential and Japanese Scientific Technology	
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	吉澤 史昭	(所属・職名) 理事 (学務・社会共創担当)
	(交替年月日)	令和3年4月1日	
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名
		(日本語表記)	(英語表記)
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
 ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://uu-a.utsunomiya-u.ac.jp>

1. 取組内容の進捗状況

本事業における2020年度の取組内容について記入してください。

(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

本学の地域創生科学研究科（大学院修士課程）における、分子農学プログラム、農芸化学プログラム、農業生産環境保全学プログラム、農業・農村経済学プログラム、農業土木学プログラム、グローバル・エリアスタディーズ・プログラム、及び多文化共生学プログラムでの英語対応科目をリストアップし、その科目の英語概要をまとめた。一方、これらの英語対応科目の英語シラバスが整備されていないので、この点に関して地域創生科学研究科の担当者と協議し、世界展開力強化事業関係者と協力しながら進めていくことを確認した。

【特に優れた取組】

大学院修士課程における英語対応科目のリストアップ、及びその科目の英語概要の取りまとめ。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

本学の研究・グローバル戦略担当理事、農学部、国際学部及び留学生・国際交流センターの教員、並びに留学生・国際交流センター事務室のスタッフから構成される、世界展開力強化事業推進室を立ち上げた。また、教育管理運営委員会に関して、本学側では農学部及び国際学部の教員が中心となって委員会を構築中である。一方、アフリカの6つの協力大学側においては、世界展開力強化事業推進室の各担当教員がメールにより協議し、3つの大学において委員が選出された。また、次年度から毎月1回、定期的に教育管理運営委員会を中心とした会議の開催を行うことを決定した。

【特に優れた取組】

次年度から実施する、毎月1回の定期的な教育管理運営委員会を中心とした会議の開催の決定。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

エチオピアのアジスアベバ大学との学術交流協定については、相手大学の了解が得られ、次年度の5月頃には締結出来ると思われる。タンザニアのダルエスサラーム大学及びネルソンマンデラアフリカ科学技術機構、そしてケニアのメル科学技術大学については、協定書案を作成し、相手大学と内容の詳細について協議中である。また、栃木経済同友会に所属する3つの企業に対してオンラインによるインターンシップ実施の依頼を行った。更に、アフリカ開発協会とWeb会議を開催し、アフリカの現地における協力を依頼した。

【特に優れた取組】

学術交流協定が未締結の4大学との協定締結の取り組み。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本事業の日本語版及び英語版のホームページ (<https://uu-a.utsunomiya-u.ac.jp>) を3月に立ち上げた。また、本事業に関する日本語版及び英語版のパンフレットを作成し、本学大学院修士課程（地域創生科学研究科）の新入生やアフリカの協力6大学に配布した。これらの取り組みにより、地域創生科学研究科の学生及びアフリカの学生に対して、学生選考、奨学金、そしてアフリカの学生に対しては宿舎関係の情報を提供した。

【特に優れた取組】

本事業のホームページの立ち上げ。

(2) 特記すべき成果

3月24日（水）に、本事業のキックオフシンポジウムを開催した。プログラムでは、先ず、次期宇都宮大学長が開会の挨拶を行い、続いて、アフリカ開発協会会長からの祝辞の紹介があった。その後、当事業参加7大学の各大学の紹介を行い、本事業のチームリーダーが本事業のプログラムを紹介した。最後に、本事業の責任者が閉会の挨拶を行った。本シンポジウムには、合計93名の参加者があり、内訳としてジョモケニヤッタ農工大学が7名、メル科学技術大学が3名、アジスアベバ大学が2名、ダルエスサラーム大学が3名、ネルソンマンデラアフリカ科学技術機構が7名、ガーナ大学が19名、宇都宮大学が38名、外部が14名であった。また、JICA筑波事務所からも1名の参加があった。このように、成功裏に本シンポジウムを実施することが出来た。本シンポジウムにより、アフリカの6大学及び宇都宮大学の学生への宣伝効果が期待され、これからの本事業の学生交流に大きく寄与すると考えられる。

(3) オンラインを活用した工夫・改善点

オンラインによる本事業のキックオフシンポジウムを開催した。また、次年度に向けて、オンラインによる集中講義及び特別講演会・シンポジウムの開催の検討を行った。更に、オンラインによる学生サミットの開催についても検討した。

2. 交流学生数の実績等【(1)と(2)は各3ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

① 日本人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2			0 人	7 人	13 人	21 人	21 人
単位取得を伴う派遣学生数			0 人	7 人	13 人	21 人	21 人
	30日未満	B (大学院生)	人	7 人	12 人	18 人	18 人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上	B (大学院生)	人	人	1 人	3 人	3 人
上記以外の派遣学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う派遣学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人
上記以外の派遣学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人

●合計人数

			2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (A=小計1+2)			0 人	7 人	13 人	21 人	21 人
単位取得を伴う派遣学生数			0 人	7 人	13 人	21 人	21 人
	30日未満		0 人	7 人	12 人	18 人	18 人
	30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上		0 人	0 人	1 人	3 人	3 人
上記以外の派遣学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

② 日本人学生数の実績

		学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
			実渡航	オンライン	ハイブリッド	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計人数 (B=実渡航+オンライン+ハイブリッド)			0人			0人			0人			0人			0人		
単位取得を伴う派遣学生数			0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
30日未満			人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
30日以上3ヶ月未満			人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
3ヶ月以上			人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
上記以外の派遣学生数			0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
30日未満			人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
30日以上3ヶ月未満			人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
3ヶ月以上			人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
達成目標に対する 実績の割合 (B/A)						0.0%			0.0%			0.0%			0.0%		

③ 交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

① 外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計3			0 人	7 人	13 人	21 人	21 人
単位取得を伴う受入学生数			0 人	7 人	13 人	21 人	21 人
	30日未満	B (大学院生)	人	7 人	12 人	18 人	18 人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上	B (大学院生)	人	人	1 人	3 人	3 人
上記以外の受入学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計4			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う受入学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人
上記以外の受入学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人

●合計人数

			2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (C=小計3+4)			0 人	7 人	13 人	21 人	21 人
単位取得を伴う受入学生数			0 人	7 人	13 人	21 人	21 人
	30日未満		0 人	7 人	12 人	18 人	18 人
	30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上		0 人	0 人	1 人	3 人	3 人
上記以外の受入学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

② 外国人学生数の実績

		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (D)			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
実渡航	オンライン	ハイブリッド	0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う受入学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人
上記以外の受入学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合 (D/C)				0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

③ 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	0	0	2	2	4	4	6	6	6	6

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：宇都宮大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ジョモ・ケニヤッタ農工大学	認定者数	B (大学院生)	0	4	4	4	4
	認定単位数	B (大学院生)	0	8	12	8	12
アジスアベバ大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	3	4	4
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	6	12	8
メル科学技術大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	3	3	3
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	6	10	6
ダルエスサラーム大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	3	3
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	6	10
ネルソンマンデラアフリカ科学技術機構	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	3	3
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	10	6
ガーナ大学	認定者数	B (大学院生)	0	3	3	4	4
	認定単位数	B (大学院生)	0	6	6	8	12
年度別認定者数合計			0	7	13	21	21
年度別認定単位数合計			0	14	30	54	54

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：宇都宮大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ジョモ・ケニヤッタ農工大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
アジスアベバ大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
メル科学技術大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
ダルエスサラーム大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
ネルソンマンデラアフリカ科学技術機構	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
ガーナ大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和2年度採択）

令和3年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	山口大学			
主たる交流先	アフリカ諸国	ナイロビ大学獣医学部（ケニア）		
事業名	【和文】	アジア・アフリカにおけるOne Health問題の解決に向けた感染症対策を担う獣医師育成プログラム		
	【英文】	Veterinarian training program responsible for infectious disease control to solve One Health problem in Asia and Africa		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	進士 正人	(所属・職名) 副学長（国際連携担当）	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用				
http://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~sekaitenkai/				

1. 取組内容の進捗状況

本事業における2020年度の取組内容について記入してください。
(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望
①交流プログラムの内容 アジア・アフリカにおける感染症対策を担う獣医師育成を目的として、本学とナイロビ大学の教員によるオンライン講義からなる「獣医国際感染症学」を設置した。プログラム教員の選抜および同科目の設置が3月になったこと、またCOVID-19の影響によりナイロビ大学が閉校となっていたため、双方とも履修学生の選抜は出来なかったが、2021年度のなるべく早い時期に学生の選抜を行い、オンラインによる講義、グループディスカッションを開始する。
【特に優れた取組】 本学にハイフレックス対応遠隔システムを導入し、「獣医国際感染症学」におけるナイロビ大学との共通講義及びグループディスカッションを行うことが可能となる体制を整備した。本学共同獣医学部は、鹿児島大学と遠隔システムを利用した共通講義や実習を実施してきた経験が豊富であり、同講義においても支障なく行うことが可能である。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 アジア・アフリカにおけるヒトや動物の感染症を学ぶことに焦点を当てた「獣医国際感染症学」を推進するにあたり、カリキュラムの設定、講義・実習の実施、成績評価及び単位認定等を行う組織として両大学の担当教員からなるプログラム運営委員会を設置した。また、プログラムの評価・改善に向けた提言を行う組織として、本学共同獣医学部の教員や学生で組織する自己点検評価委員会、および他大学獣医学部や国立感染症研究所等の外部有識者で構成する外部評価委員会を設置することで、本事業を推進させる体制を構築できた。
【特に優れた取組】 本学は欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）の国際認証を取得しており、国際水準の獣医学教育に携わる教員が構成メンバーとなるプログラム委員会を設置した。また、外部評価委員会の委員は、人および動物の感染症の専門家、ケニアに長年在住経験のある大学教員等により構成され、充実したプログラムの実施体制を築いた。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 2019年に改訂した有事の際の大学の対応を定めた「留学危機管理マニュアル」に基づき、2020年度には危機対策本部要員用のチェックリストを作成し、広報、現地対応、学生・教職員・家族対応等に関して、各部署の定期異動などで担当者が入り替わった場合でも危機発生時に適切な対応が出来る状態を実現した。2021年度には、危機管理シミュレーションを実施し、対策本部の対応力を高めたい。
【特に優れた取組】 学生が海外渡航時に基本情報を登録することで渡航状況を一元的に管理することが出来る「海外派遣システム」を構築した。同システムは、外国人学生が一時帰国する際にも登録が出来る仕組みとなっており、危機発生時に学生の渡航状況を迅速に把握することが可能となった。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 キャンパスのグローバル化を図るため、学内事務職員を対象として、スピーキング及びライティングからなる英語研修の実施及び学内の文書・規程等の英語化を行った。本取組は、今後も継続して実施し、全学的に国際化を進めることとしている。また、日本語・英語の2言語に対応した本事業専用ウェブサイトを開設し、全学組織としての事業推進委員会の設置・開催及びキックオフシンポジウムの開催を通して、本事業の各種取組に関する学内外への情報発信を行った。また、本プログラムに関し、2021年3月にオンラインによりキックオフシンポジウムを開催し、ナイロビ大学獣医学部の担当教員からの大学紹介、ケニアで診療・研究活動を続けている獣医師による特別講演により、参加学生に対して現地における教育・研究活動などへの積極的な参加の意識醸成を図ることができた。
【特に優れた取組】 2021年3月に開催したキックオフシンポジウムによりナイロビ大学獣医学部の担当教員から同学部の紹介があったほか、ケニアで約40年間にわたって診療・研究活動を続けている獣医師による特別講演を実施し、参加学生に対して現地における教育・研究活動などへの積極的な参加の意識醸成を図ることができた。
(2) 特記すべき成果
COVID-19（新型コロナウイルス感染症）等の影響により、ナイロビ大学が断続的に閉校されている状況下で、オンラインによりナイロビ大学担当教員による同大学の紹介、アフリカにおいて長年にわたり活動している獣医師による特別講演などを内容としたキックオフシンポジウムを開催した。 また、日本国内においてもCOVID-19の影響により物品調達等が困難な状況下で、ナイロビ大学とのオンライン講義の実施を含めた学生交流実現のために、本学側へハイフレックス対応遠隔システムを整備するなど、2021年度における人的交流の基盤整備を行った。
(3) オンラインを活用した工夫・改善点
キックオフシンポジウムは、対面形式での開催が出来ない状況での代替措置として、本学共同獣医学部の講義室に導入した遠隔講義システムを活用した開催（Web開催）により、ナイロビ大学担当教員がオンラインで参加することが出来た。また、オンラインの開催とすることで多方面からアクセス出来ることの利点を活かし、アフリカで長年にわたり獣医師として活躍している神戸俊平氏の特別講演が実現した。

2. 交流学生数の実績等【(1)と(2)は各3ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

① 日本人学生数の達成目標

●申請時の計画調査記載人数

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2		0 人	16 人	16 人	16 人	16 人
単位取得を伴う派遣学生数		0 人	4 人	4 人	4 人	4 人
30日未満	A (学部生)	0 人	4 人	4 人	4 人	4 人
30日以上3ヶ月未満						
3ヶ月以上						
上記以外の派遣学生数		0 人	12 人	12 人	12 人	12 人
30日未満	A (学部生)	0 人	10 人	10 人	10 人	10 人
30日以上3ヶ月未満	B (大学院生)	0 人	2 人	2 人	2 人	2 人
3ヶ月以上						

●海外相手大学追加調査分

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う派遣学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日未満						
30日以上3ヶ月未満						
3ヶ月以上						
上記以外の派遣学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日未満						
30日以上3ヶ月未満						
3ヶ月以上						

●合計人数

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (A=小計1+2)		0 人	16 人	16 人	16 人	16 人
単位取得を伴う派遣学生数		0 人	4 人	4 人	4 人	4 人
30日未満		0 人	4 人	4 人	4 人	4 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の派遣学生数		0 人	12 人	12 人	12 人	12 人
30日未満		0 人	10 人	10 人	10 人	10 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	2 人	2 人	2 人	2 人
3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

② 日本人学生数の実績

		学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
			実渡航	オンライン	ハイブリッド	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計人数 (B=実渡航+オンライン+ハイブリッド)			0人			0人			0人			0人			0人		
単位取得を伴う派遣学生数			0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	30日未満	A (学部生)	0人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	30日以上3ヶ月未満		人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	3ヶ月以上		人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
上記以外の派遣学生数			0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	30日未満	A (学部生)	0人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	30日以上3ヶ月未満	B (大学院生)	0人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	3ヶ月以上		人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
達成目標に対する 実績の割合 (B/A)						0.0%			0.0%			0.0%			0.0%		

③ 交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

2021年3月に「獣医国際感染症学」を設置したため、2021年度から学生募集を行い、学生派遣を開始する予定である。

【特に優れた取組】

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

① 外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調査記載人数

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計3		0 人	16 人	16 人	16 人	16 人
単位取得を伴う受入学生数		0 人	4 人	4 人	4 人	4 人
30日未満	A (学部生)	0 人	4 人	4 人	4 人	4 人
30日以上3ヶ月未満						
3ヶ月以上						
上記以外の受入学生数		0 人	12 人	12 人	12 人	12 人
30日未満	A (学部生)	0 人	10 人	10 人	10 人	10 人
30日以上3ヶ月未満	B (大学院生)	0 人	2 人	2 人	2 人	2 人
3ヶ月以上						

●海外相手大学追加調査分

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計4		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う受入学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日未満						
30日以上3ヶ月未満						
3ヶ月以上						
上記以外の受入学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日未満						
30日以上3ヶ月未満						
3ヶ月以上						

●合計人数

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (C=小計3+4)		0 人	16 人	16 人	16 人	16 人
単位取得を伴う受入学生数		0 人	4 人	4 人	4 人	4 人
30日未満		0 人	4 人	4 人	4 人	4 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の受入学生数		0 人	12 人	12 人	12 人	12 人
30日未満		0 人	10 人	10 人	10 人	10 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	2 人	2 人	2 人	2 人
3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

② 外国人学生数の実績

			学生別		2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
			合計人数 (D)		0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0
実渡航	オンライン	ハイブリッド			0人		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
単位取得を伴う受入学生数					0人		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	30日未満	A (学部生)			0人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	30日以上3ヶ月未満				人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	3ヶ月以上				人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
上記以外の受入学生数					0人		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	30日未満	A (学部生)			0人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	30日以上3ヶ月未満	B (大学院生)			0人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	3ヶ月以上				人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
達成目標に対する実績の割合 (D/C)							0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		

③ 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

2021年3月に「獣医国際感染症学」を設置したため、2021年度から学生募集を行い、学生受入を開始する予定である。

【特に優れた取組】

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：山口大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
			認定者数	0	4	4	4
ナイロビ大学	認定単位数	A (学部生)	0	5	5	5	5
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	4	4	4	4
年度別認定単位数合計			0	5	5	5	5

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：山口大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
			認定者数	0			
ナイロビ大学	認定単位数	A (学部生)	0				
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和2年度採択）

令和3年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	○北海道大学			
主たる交流先	アフリカ諸国	ザンビア共和国		
事業名	【和文】	アフリカと日本の架け橋となる次世代の人材を育成する国際獣医学・保全医学教育プログラム ～ザンビア・北大の頭脳循環成果を基盤として～		
	【英文】	International Veterinary and Conservation Medicine Education Program: Building upon generations of collaboration between University of Zambia and Hokkaido University for the future of Africa-Japan relations		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	滝口 満喜	(所属・職名) 大学院獣医学研究院長	
	(交替年月日)	2021/4/1		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1	ザンビア大学	The University of Zambia	ザンビア共和国
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用				
https://africa.vetmed.hokudai.ac.jp/				

1. 取組内容の進捗状況

本事業における <u>2020年度</u> の取組内容について記入してください。
(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望
①交流プログラムの内容 本事業では、ザンビア大学とともに「保全医学」に係る国際的な教育交流を実施し、One Healthに貢献しグローバルな視点で保全医学を担う人材を育成することを目的としている。2020年度は、コロナ感染症影響下のため、当初より実際の渡航を伴う受入派遣は計画せず、試行的にオンラインによる二国間シンポジウム型の演習授業を実施した。また、3月30日に拡大運営委員会を開催し、プログラムの枠組み、カリキュラム、今年度・来年度の具体的な交流事業の協議を行った。さらに、本プログラムで、受入学生の国内でのインターンシップの一つとして利用する北海道大学One Healthリサーチセンターについて、運営委員会を立ち上げ、さらにアフリカからの研修生の受け入れについての合意を得た。
【特に優れた取組】 3月24日に実施した演習型授業「Bilateral Symposium between University of Zambia and Hokkaido University: One Health Joint Research」では、北海道大学から4名の大学院生、ザンビア大学より8名の大学院生の参加を目標として計画したが、北海道大学、ザンビア大学、また関係省庁より91名の参加があり、9分野から、北海道大学より13名、ザンビア大学より15名の大学院生が参加した。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 2020年12月から2021年3月にかけて、運営委員会をはじめとして各種委員会の整備を行った。また、本事業では、学生の評価にコンピテンシー評価を取り入れる。その為の情報収集や共有を行い、評価方法の検討を行った。2021年にも本検討を継続するが、この評価は、本事業のみならず、大学全体に波及させる予定である。2020年度は本事業内に教務委員会を作り、内部質保証のために、教育に関して欧州獣医学教育国際認証などでそのスキームを熟知している教員を配置し、QA (Quality Assurance) 担当ユニットを設置した。また、学生の修得知識と技能の評価を行えるよう、コンピテンシーおよびブルーブリック項目の策定作業を開始した。また、実質的な派遣受入を伴う際の研修がコロナ感染症により影響を受けることも想定し、2020年度はザンビア大学との授業の試行を行った。
【特に優れた取組】 本学獣医学研究院では、欧州における国際水準の認証を取得しており、その一環として、教務委員会に学生が参加している。その為、本プログラムにおいて、ステークホルダーにはJICAやOne Healthに係る他大学の教員のほか、大学院生が参画しており、学生の視点も取り入れた質保証の枠組みを構築している。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 授業について分野横断的に多様な学生が参加できるよう、全学向けの大学院共通授業科目として、9科目のシラバスを大学院共通授業科目としてWEBサイトに掲載した。上記のうち、6科目については履修ガイドブックを作成した。2021年3月に海外派遣・国際交流に関するリスク管理セミナーをFDとして開催した。海外におけるリスクマネジメントに関する2つの講演のほか、ワークショップ形式での演習も実施し、プログラム担当者が学生に伝えるべきリスク管理の視点を学ぶことができた。また、WEBサイトを開設した他、パンフレットを作成し、必要な情報を得られるようにした。シラバスについても公開し、順次、情報を提供できる体制を整えた。また派遣に向けてSOPの作成を
【特に優れた取組】 本プログラムでは分野横断的な科目で構成され、多様な授業となるため、履修ガイドブックの作成により、希望者が各科目を選択しやすい工夫を行っている。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 大学の世界展開力強化事業のために北海道大学のホスティングサーバーに日英表記のWEBサイトを構築した。さらに、日英表記のパンフレット500部の作成を行い、学内関係者に配布した。またロゴを作成し、事業紹介時に広報用に使用できるようにした。また、北海道大学アフリカ研究会とも連携し、研究会WEBサイトとも連携して広報を行っている。
【特に優れた取組】 ザンビア大学における北海道大学ルサカオフィスの協力を得てザンビア大学内に広報を進めている。

(2) 特記すべき成果

2020年に実施した2国間の交流プログラムでは、ザンビア大学及び北海道大学間で、医学、地球環境、獣医学、農学、工学、公衆衛生、鉱山、経済学、国際感染症など、分野を問わない多様な部局より大学院生が参加した。また、ザンビア共和国からは鉱山省、保健省、環境局、日本からはJICA、在ザンビア大使館、民間企業など、保全医学に係るステークホルダーが多く出席した。

(3) オンラインを活用した工夫・改善点

■2020年度は当初よりコロナ感染症の影響を見込んでおり、実際には学生の派遣及び受入は行っておらず、単位を伴う授業は実施していない（当初計画通り）。その為、2021年度以降の授業のための準備を行った。特に、ハイフレックスの体制を確立するためにオンライン授業のためのシステム整備を行った。オンライン授業のインフラ整備のほか、ハイセキュリティのシステム確立のためにファイアウォールの設置も含めて総合的な整備を行った。

■オフサイトの授業については、ザンビアと日本での時差があることからオンデマンド中心に実施することでザンビア大学と協議を行っている。その為、ストリーミングサーバーを使用した配信を行うことで調整を行った。

■北海道大学、ザンビア大学学生が利用するオンラインコンテンツとして、11のオンラインコンテンツを作成した。一部を除いたコンテンツについてはLMSに公開し、学生がアクセスできるように整えた。E-ラーニングコンテンツについては、2021年度も引き続き作成を行う。

1.Overview of Risk analysis、2.Risk communication、3.Risk management、4.Risk assessment、5.Laboratory tips: How to set-up qPCR?、6.Laboratory tips: How to take BALF?、7.Impact Evaluation of Development Programs、8.Understanding Plants and Soils - in relation to environmental pollutions、9.How do we remediate abandoned mine sites?、10.Environmental radioactivity and health hazard、11.Environmental Origins of Health and Diseases

2. 交流学生数の実績等 [(1)と(2)は各3ページ以内]

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

① 日本人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2			4 人	18 人	18 人	18 人	18 人
単位取得を伴う派遣学生数			0 人	8 人	8 人	8 人	8 人
	30日未満	B (大学院生)	0 人	8 人	8 人	8 人	8 人
	30日以上3ヶ月未満	B (大学院生)	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上	B (大学院生)	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の派遣学生数			4 人	10 人	10 人	10 人	10 人
	30日未満	B (大学院生)	4 人	10 人	10 人	10 人	10 人
	30日以上3ヶ月未満	B (大学院生)	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上	B (大学院生)	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●海外相手大学追加調査分

		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う派遣学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人
上記以外の派遣学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人

●合計人数

			2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (A=小計1+2)			4 人	18 人	18 人	18 人	18 人
単位取得を伴う派遣学生数			0 人	8 人	8 人	8 人	8 人
	30日未満		0 人	8 人	8 人	8 人	8 人
	30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の派遣学生数			4 人	10 人	10 人	10 人	10 人
	30日未満		4 人	10 人	10 人	10 人	10 人
	30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

② 日本人学生数の実績

		学生別	2020年度		2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
合計人数 (B=実渡航+オンライン+ハイブリッド)			15	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人
実渡航	オンライン	ハイブリッド	15	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人
単位取得を伴う派遣学生数			0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人
	30日未満	B (大学院生)	0	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満	B (大学院生)	0	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	3ヶ月以上	B (大学院生)	0	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の派遣学生数			15	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人
	30日未満	B (大学院生)	15	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満	B (大学院生)	0	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	3ヶ月以上	B (大学院生)	0	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する 実績の割合 (B/A)			375.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	

③ 交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

- 2020年度はコロナ感染症の状況を鑑み、また、事業実施期間を考慮し、実際の派遣は行わず、オンラインでの参加を計画していたところ、演習型授業に計画以上の学生数の参加があり、目標を達成できた。
- 北海道大学からは大学院生のみならず、学部生も参加しており、将来的にアフリカに興味を持つ学生の育成に向けた基礎プログラムとして期待できると考えている。
- 今回のプログラムでは、北海道大学One Healthフロンティア卓越大学院において様々な分野の学生を取り込むAllyコースとも連携しており、他大学の大学院生も参加した。学内のほかのプログラムとの積極的な連携は、今後、北海道大学以外の大学への波及の布石となると考えている。
- また、今回の演習では、医学、獣医学、経済学、工学、農学、感染症学、地球環境学、保健科学など、多様な分野の学生が参加した。同時に、同分野の教員も参画しており、今後、多分野を巻き込んだプログラム実施の試行的な実施を行うことができたと考えている。

【特に優れた取組】

本プログラムでは、日本からの参加者として、北海道大学の学生や教職員に加え、他大学や、JICA、JST、民間企業からも参画があり、大学内にとどまらない交流を実施することができた。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

① 外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調査記載人数

		学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計3				8 人	14 人	14 人	14 人	14 人
単位取得を伴う受入学生数				0 人	4 人	4 人	4 人	4 人
	30日未満			0 人	4 人	4 人	4 人	4 人
	30日以上3ヶ月未満			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の受入学生数				8 人	10 人	10 人	10 人	10 人
	30日未満			8 人	10 人	10 人	10 人	10 人
	30日以上3ヶ月未満			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●海外相手大学追加調査分

		学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計4				0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う受入学生数				0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満			0 人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満			0 人	人	人	人	人
	3ヶ月以上			0 人	人	人	人	人
上記以外の受入学生数				人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満			0 人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満			0 人	人	人	人	人
	3ヶ月以上			0 人	人	人	人	人

●合計人数

		学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (C=小計3+4)				8 人	14 人	14 人	14 人	14 人
単位取得を伴う受入学生数				0 人	4 人	4 人	4 人	4 人
	30日未満			0 人	4 人	4 人	4 人	4 人
	30日以上3ヶ月未満			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の受入学生数				8 人	10 人	10 人	10 人	10 人
	30日未満			8 人	10 人	10 人	10 人	10 人
	30日以上3ヶ月未満			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

② 外国人学生数の実績

学生別			2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (D)			13 人	0 人	0 人	0 人	0 人
実渡航	オンライン	ハイブリッド	13人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う受入学生数			0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満	B (大学院生)	0人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満	B (大学院生)	0人	人	人	人	人
	3ヶ月以上	B (大学院生)	0人	人	人	人	人
上記以外の受入学生数			13人	0人	0人	0人	0人
	30日未満	B (大学院生)	13人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満	B (大学院生)	0人	人	人	人	人
	3ヶ月以上	B (大学院生)	0人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合 (D/C)			162.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

③ 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

- 2020年度はコロナ感染症の影響を鑑みて、実際の学生の日本への受入は計画せず、オンラインでのプログラムの実施を計画した。その為、計画したオンラインによる演習型授業に、当初計画以上の学生の参加があり、目標を達成できている。
- ザンビア大学からは獣医学以外に、鉱山学、工学、公衆衛生学などの多様な学生の参加があり、複数分野の学生による研究発表やディスカッションを実施することができた。また多様な分野からの教員の参加もあった。2021年度以降、ザンビア大学内での他分野への波及についてさらに継続する。
- 2021年度より学生の派遣を実施する予定であるが、コロナ感染症の影響により実際の派遣を行えない可能性がある。その際に、今回のようなオンラインによる双方向の演習型授業の試行的な実施は、その解決の一つの手段になると考えている。

【特に優れた取組】

本プログラムではザンビア共和国における日本大使館、JICAザンビア事務所に加え、ザンビア政府機関（鉱山省、保健省、環境局、高等教育省）、国際機関（世界銀行）など、多様なステークホルダーが参画した。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

単位互換を実施する海外相手大学数	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 北海道大学】

相手大学名	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ザンビア大学	認定者数 B (大学院生)	0	8	8	8	8
	認定単位数 B (大学院生)	0	24	24	24	24
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	8	8	8	8
年度別認定単位数合計		0	24	24	24	24

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

単位互換を実施した海外相手大学数	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 北海道大学】

相手大学名	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ザンビア大学	認定者数 B (大学院生)	0				
	認定単位数 B (大学院生)	0				
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和2年度採択）

令和3年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	○秋田大学、九州大学			
主たる交流先	アフリカ諸国	南アフリカ共和国、ザンビア共和国、モザンビーク共和国、ボツワナ共和国		
事業名	【和文】	南部アフリカの持続的資源開発を先導するスマートマイニング中核人材の育成		
	【英文】	An innovative program for development of core human resources for smart mining to lead sustainable resource development in Southern Africa		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏名)	藤井 光	(所属・職名) 副学長（国際戦略担当） 国際資源学研究所・研究科長、教授	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
 ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用

(日本語版) <https://www.akita-u.ac.jp/shigen/iuep-w-safrica/jp/>

(英語版) <https://www.akita-u.ac.jp/shigen/iuep-w-safrica/en/>

1. 取組内容の進捗状況

<p>本事業における<u>2020年度</u>の取組内容について記入してください。</p>
<p>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</p>
<p>①交流プログラムの内容</p> <p>本事業の初年度である2020年度は、次年度からのプログラムの本格スタートに向けた体制準備を進める準備期間とした。実行委員会、運営委員会を立ち上げ、実施要項を制定し両委員会メンバーを選定し、実行機関、評価機関としての運営体制を整備した。また、運営委員会においてプログラム内容や学習コンテンツ作成にかかる進捗状況の確認および実行委員会メンバーを承認し、プログラム実施に向けた体制作りを進めた。</p>
<p>【特に優れた取組】</p> <p>運営委員会を開催し、同委員会実施要項およびプログラム設定のための実行委員会設置を承認した。運営委員として指名する国内の行政機関（JICA, JOGMEC, JCOAL）のメンバーを協議のうえ選出し、より発展的なプログラムを推進できる体制を整えた。</p>
<p>②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成</p> <p>教育の質保証のためのシステムである実行委員会と運営委員会を立ち上げるため、実施要項を制定、また両委員会メンバーを選定し、実行機関、評価機関としての運営体制を整備した。日本・アフリカの関係大学とプログラム内容を確認し、学習コンテンツの質を高めるための協議を重ね実施体制の整備を進めた。次年度も継続して実施する。</p>
<p>【特に優れた取組】</p> <p>運営委員会を開催し、同委員会実施要項およびプログラム設定のための実行委員会設置を承認した。また、プログラム内容や学習コンテンツ作成にかかる進捗状況の確認および実行委員会メンバーを承認し、プログラム実施に向けた体制作りを進めた。</p>
<p>③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備</p> <p>オンラインによる学習コンテンツ実行のためのツールとして、GOOCUSと呼ばれる学習管理システムを導入し、本プログラムに合わせて学生が使用できる学習コンテンツの作成を進め、学習管理システムの構築やオンライン講義実施の環境整備を進めた。また、南部アフリカ大学側の学生に本プログラムを周知し、募集するため英語版のホームページとパンフレットを作成した。パンフレットにはアフリカの学生にもプログラムの内容を理解できるよう、プログラムの概要だけでなくカリキュラム内容を加えて作成した。参加学生がJASSO等の支援を受け、プログラムに専念できる環境を整えた。次年度も継続して実施する。</p>
<p>【特に優れた取組】</p> <p>Learning Management SystemのGOOCUSを導入することとし、学習コンテンツの作成とプログラムの学習効果を向上させる導入方法の検討を行った。南部アフリカ大学側の学生にもプログラムの内容を理解できるようプログラム概要、カリキュラム内容を加えたパンフレットを作成した。</p>
<p>④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及</p> <p>国内外への情報提供およびプログラム学生募集に向け本事業のホームページとパンフレットを作成した。日本人学生だけでなく、より多くのアフリカ学生に本プログラムのことを周知できるよう日英両言語でホームページを作成した。次年度も継続して実施する。</p>
<p>【特に優れた取組】</p> <p>国内外への情報提供およびプログラム学生募集に向けカリキュラム内容を加えたパンフレットを作成し、本事業のホームページを日英両言語で作成した。</p>
<p>(2) 特記すべき成果</p>
<p>本プログラムには数度の渡航を伴う交流ユニットが用意されているが、昨今の世界的な新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して全てのユニットがオンラインによって実施可能となるようオンライン(ライブ)、オンデマンド、オンデマンド独習型の教育方式を積極的に導入する。このため、オンライン講義実施の環境整備のための備品を整え、プログラムに求められる学習管理システムの確認と、より厳密かつ透明性の高い学修管理となるようGOOCUSの導入方法の検討を行った。その後、実際にアカウント発行による導入をスタートし、学習管理システムの開発を進めた。</p>
<p>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</p>
<p>本プログラムでは、昨今の世界的な新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して、オンライン(ライブ)、オンデマンド、オンデマンド独習型の教育方式を積極的に導入する。このため、オンライン講義実施の環境整備のための備品を整える。また、GOOCUSを導入し、情報工学や語学のオンデマンド独習型教材を開発することにより、入国後、一定期間隔離措置が講じられる事になっても、プログラム運営側や他のプログラム生と繋がりを持ちながら効果の高い教育を提供できるようにする。</p>

2. 交流学生数の実績等【(1)と(2)は各3ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

① 日本人学生数の達成目標

●申請時の計画調査記載人数

		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2			0 人	10 人	40 人	65 人	65 人
単位取得を伴う派遣学生数			0 人	10 人	40 人	65 人	65 人
	30日未満	A (学部生)	0 人	10 人	10 人	10 人	10 人
	30日未満	B (大学院生)	0 人	0 人	20 人	35 人	35 人
	30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上	B (大学院生)	0 人	0 人	10 人	20 人	20 人
上記以外の派遣学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●海外相手大学追加調査分

		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う派遣学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人
上記以外の派遣学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人

●合計人数

			2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (A=小計1+2)			0 人	10 人	40 人	65 人	65 人
単位取得を伴う派遣学生数			0 人	10 人	40 人	65 人	65 人
	30日未満		0 人	10 人	30 人	45 人	45 人
	30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上		0 人	0 人	10 人	20 人	20 人
上記以外の派遣学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

② 日本人学生数の実績

		学生別		2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合計人数 (B=実渡航+オンライン+ハイブリッド)				0人			0人			0人			0人			0人		
実渡航				0人			0人			0人			0人			0人		
単位取得を伴う派遣学生数				0人			0人			0人			0人			0人		
30日未満				0人			0人			0人			0人			0人		
30日以上3ヶ月未満				0人			0人			0人			0人			0人		
3ヶ月以上				0人			0人			0人			0人			0人		
上記以外の派遣学生数				0人			0人			0人			0人			0人		
30日未満				0人			0人			0人			0人			0人		
30日以上3ヶ月未満				0人			0人			0人			0人			0人		
3ヶ月以上				0人			0人			0人			0人			0人		
達成目標に対する 実績の割合 (B/A)							0.0%			0.0%			0.0%			0.0%		

③ 交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

2020年度はプログラムの準備期間であったため、日本人学生の派遣は行わなかった。一方で、実施体制整備や学習コンテンツの作成を進めオンライン講義のための備品を整えた。2021年度には新型コロナウイルス感染状況を鑑みながら、派遣を開始する予定である。

【特に優れた取組】

2020年度は、次年度からのプログラムスタートに向けた準備期間であったため、実施体制整備や学習コンテンツの作成を進めオンライン講義のための備品を整えた。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

① 外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調査記載人数

		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計3			0 人	10 人	50 人	60 人	60 人
単位取得を伴う受入学生数			0 人	10 人	50 人	60 人	60 人
	30日未満	A (学部生)	0 人	10 人	10 人	10 人	10 人
	30日未満	B (大学院生)	0 人	0 人	20 人	30 人	30 人
	30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上	B (大学院生)	0 人	0 人	20 人	20 人	20 人
上記以外の受入学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●海外相手大学追加調査分

		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計4			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う受入学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人
上記以外の受入学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人

●合計人数

			2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (C=小計3+4)			0 人	10 人	50 人	60 人	60 人
単位取得を伴う受入学生数			0 人	10 人	50 人	60 人	60 人
	30日未満		0 人	10 人	30 人	40 人	40 人
	30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上		0 人	0 人	20 人	20 人	20 人
上記以外の受入学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

② 外国人学生数の実績

			学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (D)				0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
実源航	オンライン	ハイブリッド		0人	0人	0人	0人	0人
				0人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う受入学生数				0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満			0人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満			0人	人	人	人	人
	3ヶ月以上			0人	人	人	人	人
上記以外の受入学生数				0人	0人	0人	0人	0人
	30日未満			0人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満			0人	人	人	人	人
	3ヶ月以上			0人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合 (D/C)					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

③ 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

2020年度はプログラムの準備期間であったため、外国人留学生の受入は行わなかった。一方で、実施体制整備や学習コンテンツの作成を進めオンライン講義のための備品を整えた。2021年7月にはオンラインによる受入開始を予定している。

【特に優れた取組】

2020年度は、次年度からのプログラムスタートに向けた準備期間であったため、実施体制整備や学習コンテンツの作成を進めオンライン講義のための備品を整えた。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	0	0	5	5	5	5	5	5	5	5

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：秋田大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ヴィッツウォーターズ ランド大学	認定者数	A (学部生)	0	4	4	4	4
	認定単位数	A (学部生)	0	4	4	4	4
ヴィッツウォーターズ ランド大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	5	10	10
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	5	11	11
ザンビア大学	認定者数	A (学部生)	0	1	1	1	1
	認定単位数	A (学部生)	0	4	4	4	4
ザンビア大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	5	10	10
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	5	11	11
テテ工科大学	認定者数	A (学部生)	0	1	1	1	1
	認定単位数	A (学部生)	0	4	4	4	4
テテ工科大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	5	10	10
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	5	11	11
ボツワナ国際科学技術 大学	認定者数	A (学部生)	0	1	1	1	1
	認定単位数	A (学部生)	0	4	4	4	4
ボツワナ国際科学技術 大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	5	10	10
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	5	11	11
ボツワナ大学	認定者数	A (学部生)	0	1	1	1	1
	認定単位数	A (学部生)	0	4	4	4	4
ボツワナ大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	5	10	10
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	5	11	11
年度別認定者数合計			0	8	33	58	58
年度別認定単位数合計			0	20	45	75	75

2. 国内連携大学 【大学名：九州大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
-------	--	-----	--------	--------	--------	--------	--------

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：秋田大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ヴィッツウォーターズ ランド大学	認定者数	A (学部生)	0				
	認定単位数	A (学部生)	0				
ヴィッツウォーターズ ランド大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
ザンビア大学	認定者数	A (学部生)	0				
	認定単位数	A (学部生)	0				
ザンビア大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
テテ工科大学	認定者数	A (学部生)	0				
	認定単位数	A (学部生)	0				
テテ工科大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
ボツワナ国際科学技術 大学	認定者数	A (学部生)	0				
	認定単位数	A (学部生)	0				
ボツワナ国際科学技術 大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
ボツワナ大学	認定者数	A (学部生)	0				
	認定単位数	A (学部生)	0				
ボツワナ大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名：九州大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
-------	--	-----	--------	--------	--------	--------	--------

ヴィッツウォーターズ ランド大学	認定者数	A (学部生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	A (学部生)	0	0	0	0	0
ヴィッツウォーターズ ランド大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	5	10	10
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	5	11	11
ザンビア大学	認定者数	A (学部生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	A (学部生)	0	0	0	0	0
ザンビア大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	5	10	10
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	5	11	11
テテ工科大学	認定者数	A (学部生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	A (学部生)	0	0	0	0	0
テテ工科大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	5	10	10
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	5	11	11
ボツワナ国際科学技術 大学	認定者数	A (学部生)	0	1	1	1	1
	認定単位数	A (学部生)	0	4	4	4	4
ボツワナ国際科学技術 大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	5	10	10
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	5	11	11
ボツワナ大学	認定者数	A (学部生)	0	1	1	1	1
	認定単位数	A (学部生)	0	4	4	4	4
ボツワナ大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	5	10	10
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	5	11	11
年度別認定者数合計			0	2	27	52	52
年度別認定単位数合計			0	8	33	63	63

ヴィッツウォーターズ ランド大学	認定者数	A (学部生)	0				
	認定単位数	A (学部生)	0				
ヴィッツウォーターズ ランド大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
ザンビア大学	認定者数	A (学部生)	0				
	認定単位数	A (学部生)	0				
ザンビア大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
テテ工科大学	認定者数	A (学部生)	0				
	認定単位数	A (学部生)	0				
テテ工科大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
ボツワナ国際科学技術 大学	認定者数	A (学部生)	0				
	認定単位数	A (学部生)	0				
ボツワナ国際科学技術 大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
ボツワナ大学	認定者数	A (学部生)	0				
	認定単位数	A (学部生)	0				
ボツワナ大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和2年度採択）

令和3年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	広島大学			
主たる交流先	アフリカ諸国			
事業名	【和文】	南北アフリカとの互恵的パートナーシップ構築のためのトライアングル海外学習プログラム		
	【英文】	Triangular Study Abroad Program for Reciprocal Partnership with North and Sub-Saharan Africa		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	金子 慎治	(所属・職名) 理事・副学長（グローバル化担当）	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用				
(日本語版) https://triangle-africa.hiroshima-u.ac.jp/ (英語版) https://triangle-africa.hiroshima-u.ac.jp/en/				

1. 取組内容の進捗状況

本事業における2020年度の取組内容について記入してください。

(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

本事業は、北アフリカ地域のエジプトの4大学、サブサハラ地域のザンビア大学とマラウイ大学の計6大学と共同で、アフリカを質の高い経済成長へ導くための教育、保健医療、食料安全保障の戦略3分野のトライアングル海外学習プログラムを展開する。そして、日本とアフリカを繋ぐだけでなく、アフリカ地域間の架け橋として、多国間の国際的協調においてリーダーシップを発揮し、質の高い経済発展を主導する人材を日本とアフリカの双方に育成する。2020年度は、オンラインでの平和コースを開始し、アフリカの5大学から計13名の学生を受け入れた。

【特に優れた取組】

本学の平和教育オンライン教材に加えて、広島県や広島市、JICA等のオンラインコンテンツを活用した平和コースを実施し、交流計画の8名を超える13名の学生を受け入れ、本学の平和教育をグローバルに発信、展開することができた。アフリカとの連携実績のある本学教員をプログラムの担当者として配置し、日本やアフリカの教育研究ニーズ、アフリカの現状や地域ニーズを踏まえた架け橋人材の育成に必要な教育コンテンツの開発を行うことができた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

本事業では、本学とアフリカ6大学の合同・地域別会議を通じて、本事業の到達目標に加えて、学生の受入方針、カリキュラム方針（学習内容・評価基準）、修了方針について共有した。自己点検・評価の結果と外部評価委員会の検証結果に基づき、事業運営および教育プログラムの改善と質の向上に取り組んでいる。個別的教育プログラムについても、学生の自己点検と授業評価アンケート、BEVIテスト指標を確認することで、授業内容や方法の有効性を検証し教育プログラムの改善を図る。2020年12月には、エジプト・ザンビア・マラウイ各国の駐日大使館関係者と本事業のキックオフ会議を実施し、大学間交流の枠組み形成についての意見交換を行った。

【特に優れた取組】

合同・地域別会議をオンラインで実施し、本事業目標やプログラムのポリシーについてアフリカ6大学と共有することができた。外部評価委員より、プログラム改善に関する助言を得たことで、プログラムの改善活動を行うことができた。各国大使と情報共有・意見交換することで、持続的な大学間交流についての理解を得ることができた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

事業の推進を目的に、事業責任者である理事・副学長の下に事業実施部会を設置し、事業責任者、プログラムコーディネーター、学内関係教員及び事務担当者が参画する形で定例開催した。本学の国際室に、事業を専属で担当する職員を配置し、事業支援と学内調整を行っている。また、本学とアフリカ6大学の合同・地域別会議を通じて、スムーズな学生交流のための日程・時間調整等、学生交流を開始するための具体的な協議を行うとともに、派遣・受入れ学生の安全を確保するための各国の治安・感染症情報等の情報を収集する体制を整備した。さらに、オンラインでの学生の協働学習のための、オンライン教材の開発、学習環境整備を行った。

【特に優れた取組】

事業実施部会に、アフリカとの連携実績のある教員が参画することで、アフリカの文化・社会を踏まえた学生指導実施のための体制を速やかに整備することができた。支援組織の国際室に、事業を専属で担当する職員を配置し、相手大学との連絡調整、学生受入のワンストップサービスを提供することで、オンラインでの交流を速やかに開始することができた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本事業の周知のため2021年3月にアフリカセミナーをオンラインで開催、本事業内容と重点分野である教育、保健医療、食料安全保障分野についての本学の取組や展望の紹介、アフリカからの留学生による大学紹介を行い、国内外から約110名が参加した。また、プログラム専用のウェブサイトの日英2言語で開設し、本事業の取組について情報発信を行った。

【特に優れた取組】

オンライン・アフリカセミナーを開催したことで、本プログラムの取り組みを広く周知できたことに加えて、質疑応答を通して、学生の学習ニーズ等を把握することができた。専用ウェブサイトを開設したことで、本事業の取組等の速やかな発信、派遣・受け入れ学生との情報共有のための情報環境を整えることができた。

(2) 特記すべき成果

事業実施部会の設置やアフリカの文化・社会を踏まえた学生指導実施のための体制を速やかに整備したことで、年度内に平和オンラインコースを実施し、交流計画を上回る13名の学生を受け入れ、本学の国際化に貢献することができた。エジプト・ザンビア・マラウィ各国の駐日大使館関係者とのキックオフ会議を行ったことで、本学の国際展開、本事業の実施と持続に必要な各国からの理解を得ることができた。オンラインのアフリカセミナーに国内外から111名の参加者があり、本プログラムの取り組みを広く周知できたことに加えて、質疑応答を通して、学生の学習ニーズ等を把握することができた。

(3) オンラインを活用した工夫・改善点

平和コースでは、広島県・広島市・外務省・JICA等の幅広い平和コンテンツを活用し、学生が自主的に学習を進めるオンデマンド部分と、本学教員とのディスカッション、コンサルテーションの双方向部分を組み合わせて、効率性と質の確保を図った。

2. 交流学生数の実績等【(1)と(2)は各3ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

① 日本人学生数の達成目標

●申請時の計画調査記載人数

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2		0 人	42 人	42 人	42 人	42 人
単位取得を伴う派遣学生数		0 人	42 人	42 人	42 人	42 人
30日未満	A (学部生)	0 人	10 人	10 人	10 人	10 人
30日以上3ヶ月未満	A/B (学部生または大学院生)	0 人	26 人	26 人	26 人	26 人
3ヶ月以上	B (大学院生)	0 人	6 人	6 人	6 人	6 人
上記以外の派遣学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●海外相手大学追加調査分

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う派遣学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の派遣学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●合計人数

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (A=小計1+2)		0 人	42 人	42 人	42 人	42 人
単位取得を伴う派遣学生数		0 人	42 人	42 人	42 人	42 人
30日未満		0 人	10 人	10 人	10 人	10 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	26 人	26 人	26 人	26 人
3ヶ月以上		0 人	6 人	6 人	6 人	6 人
上記以外の派遣学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

② 日本人学生数の実績

		学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
			実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
合計人数 (B=実渡航+オンライン+ハイブリッド)			0 人			0 人			0 人			0 人			0 人		
単位取得を伴う派遣学生数			0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
30日未満	A (学部生)		0人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
30日以上3ヶ月未満	A/B (学部生または大学院生)		0人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
3ヶ月以上	B (大学院生)		0人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
上記以外の派遣学生数			0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
30日未満			0人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
30日以上3ヶ月未満			0人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
3ヶ月以上			0人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
達成目標に対する実績の割合 (B/A)						0.0%			0.0%			0.0%			0.0%		

③ 交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

2020年度については、計画とおり派遣実績はなかったが、2021年3月には学内外に向けオンライン・アフリカセミナーを実施し、約110名の参加があった。また、プログラム専用のウェブサイトを開発した。2021年度の派遣に向け、第1セメスターでのオンラインコースの開発および新型コロナウイルスによる渡航制限緩和後の実渡航を伴うプログラムの検討を行った。

【特に優れた取組】

2021年3月に実施したオンライン・アフリカセミナーにおいて、留学、国際協力、SDGs等に興味を抱く学生層に向けて本プログラムの概要、魅力を発信することができた。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

① 外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調査記載人数

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計3		8 人	56 人	56 人	56 人	56 人
単位取得を伴う受入学生数		0 人	8 人	8 人	8 人	8 人
30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
3ヶ月以上	B (大学院生)	0 人	8 人	8 人	8 人	8 人
上記以外の受入学生数		8 人	48 人	48 人	48 人	48 人
30日未満	B (大学院生)	8 人	8 人	8 人	8 人	8 人
30日以上3ヶ月未満	A/B (学部生または大学院生)	0 人	40 人	40 人	40 人	40 人
3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●海外相手大学追加調査分

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計4		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う受入学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の受入学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●合計人数

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (C=小計3+4)		8 人	56 人	56 人	56 人	56 人
単位取得を伴う受入学生数		0 人	8 人	8 人	8 人	8 人
30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
3ヶ月以上		0 人	8 人	8 人	8 人	8 人
上記以外の受入学生数		8 人	48 人	48 人	48 人	48 人
30日未満		8 人	8 人	8 人	8 人	8 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	40 人	40 人	40 人	40 人
3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

② 外国人学生数の実績

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (D)		13 人	0 人	0 人	0 人	0 人
実渡航	オンライン	13人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う受入学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満	0 人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満	0 人	人	人	人	人
	3ヶ月以上	0 人	人	人	人	人
上記以外の受入学生数		13 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満	13 人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満	0 人	人	人	人	人
	3ヶ月以上	0 人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合 (D/C)		162.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

③ 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

2021年3月29日よりオンラインでの平和コースを開始し、アフリカの5大学から計16名の学生が参加した（その内、13名が2021年4月に修了した）。

【特に優れた取組】

参加するアフリカの学生は国、文化、宗教に加え、専門分野も異なるが、「平和」や「SDGs」といった分野を超えた世界的課題を共通テーマとして据えることで一体感が生まれた。「ヒロシマ」の歩んできた道のりを広島大学が発信することで、アフリカの学生への訴求力も高まった。アフリカ3ヵ国と日本の間では7時間の時差があるので、オンラインで平和コースを実施するに際しては、オンデマンド教材を使つての学習と双方向性を確保したオンラインでの交流を組み合わせ、効率性と質を確保した。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	0	0	2	6	2	6	2	6	2	6

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：広島大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
			認定者数	B (大学院生)	0	4	4
ザンビア大学	認定単位数	B (大学院生)	0	32	32	32	32
	認定者数	B (大学院生)	0	2	2	2	2
マラウイ大学	認定単位数	B (大学院生)	0	16	16	16	16
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	6	6	6	6
年度別認定単位数合計			0	48	48	48	48

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
			認定者数				
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：広島大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
			認定者数	B (大学院生)	0		
ザンビア大学	認定単位数	B (大学院生)	0				
	認定者数	B (大学院生)	0				
マラウイ大学	認定単位数	B (大学院生)	0				
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
			認定者数				
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和2年度採択）

令和3年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	長崎大学			
主たる交流先	アフリカ諸国	ケニア共和国		
事業名	【和文】	プラネタリーヘルスの実現に向けた日ア戦略的共同教育プログラム		
	【英文】	Planetary Health Africa-Japan Strategic and Collaborative Education (PHASE) Program		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	川上 純	(所属・職名) 医歯薬学総合研究科・研究科長	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用				
http://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/phase-program/				

1. 取組内容の進捗状況

本事業における <u>2020年度</u> の取組内容について記入してください。
(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における现阶段の課題と今後の展望
①交流プログラムの内容 (1) 2020年度は事業の開始にあたり、主幹部局に事務局を設け、事業推進の基盤を構築した。(2)PHASEプログラム長崎運営委員会および日ケ運営委員会を発足し、プログラム内容について議論を進め、また、将来的な単位の付与・単位互換制度について協議を開始した。(3)長崎大学12名、相手国機関から各3名(計12名)が参加し、2021年2月15日から26日にオンライン交流プログラムを実施した。(4)引き続き想定される新型コロナウイルス感染症の影響による人的移動を伴う交流の制限への対応として、2021年度以降もオンラインシステムを積極的に活用し、リアルタイムで相互に交流できる内容を充実させていくために、本プログラム用の3DのVRキャンパスやe-Portfolioを開発し試用を開始した。
【特に優れた取組】 2月に実施したオンライン交流プログラムで、交流学生数を計画の3倍に増員し、日ケの学生をペアにして活動させた。参加学生はペア活動を通して文化の多様性や異文化交流の重要性を理解した。また、プラネタリーヘルスの問題に関心を持つことの重要性についても共有することができた。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 (1)相手国大学・機関(ケニヤッタ大学、マセノ大学、ジョモケニヤッタ農工大学(JKUAT)及びケニア中央医学研究所(KEMRI)大学院の代表者に加え、ケニア教育大臣等、ケニア教育界から多数の来賓を迎え、総勢約60名の参加のもとオンラインでオープニングセレモニーを1月に開催した。(2)PHASEプログラム日ケ運営委員会を発足し第1回目の委員会を1月に開催した。ケニア側連携大学・機関と今後の学生交流に向けた協議を開始し、交流プログラムの実施時期・プログラム内容について合意した。将来的な単位互換についてもさらに協議を進める。 (3)各相手国機関との学術交流協定や学生交流の覚書交換に向けた協議を開始し、6月現在締結手続き中1校を除き、全ての覚書を交わした。
【特に優れた取組】 1月に開催したオープニングセレモニーでは、本事業の開始にあたり、ケニア政府、ケニア国家科学技術イノベーション委員会、日本学術振興会から長崎大学と連携大学・機関のさらなる学術交流を期待する声が聞かれた。また、連携大学・機関とは、「PHASEプログラムとは、地球の健康実現に向けた学術交流と人材育成プログラムである」という共通認識が深められ、今後円滑かつ積極的にプログラムを実施していくことが確認された。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 (1)2月実施のオンライン交流プログラムでは、相手国参加学生をナイロビに在る本学ケニア拠点に参集させ本交流プログラムに集中して参加できる環境を整えた。(2)3月開催の長崎運営委員会において、次年度以降日本人学生を円滑に派遣できるよう協議を開始し、各部局へ派遣希望学生取り纏めの協力を依頼し準備を整えた。
【特に優れた取組】 相手国参加学生をナイロビに在る本学ケニア拠点に参集させ、オンライン交流に不可欠な安定したネットワーク環境を準備した。また、必要なPCを貸出し、遠方からの参加者には宿泊施設を提供する等、本交流プログラムに集中して参加できる環境を整えた。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 本プログラムのウェブサイト(日・英)を開設し、事業及び交流プログラムの内容を発信できるようテスト公開および動作確認を行った。また、PHASEプログラムの活動を普及させるためにyoutubeチャンネルを開設し、テスト公開と動作確認を行った。今後はこれらのメディアを通じて日英両言語で情報を提供していく。
【特に優れた取組】 ウェブサイトやyoutubeチャンネルの開設により、若い世代を中心に広く情報発信が可能となった。また、地域へのプレスリリースを実施したことで、本プログラムの事業内容を地域社会にも周知することができた。このプログラムは本学全学部生・全研究生を対象としており、大学全体の国際化推進への貢献を図った。

(2) 特記すべき成果

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあるなか、オンラインによるオープニングセレモニー及びプログラム日ケ運営委員会を開催し、事業実施のための組織整備を行うことができた。また、オンライン交流プログラムにおいては、交流学生数を計画の3倍に増員し、日ケの学生がペアワークに取り組んだ。その取り組みを通してプラネタリーヘルスに関する知識を共有し、また、互いの文化を知ることにより、目に見えない自己の文化的価値観を認識しグローバルな人材となるための自己意識を高めることができた。

(3) オンラインを活用した工夫・改善点

オンライン教材として3DのVRキャンパスを開発し、コロナ禍におけるオンライン交流において学生が臨場感を感じ、興味が持てる内容の教材が完成した。2月及び3月に、本プログラム参加見込み学生に作動テストを実施し、2021年度の本格的な導入に向けた準備を行った。また、e-Portfolioのバーチャル空間内において相互交流を目的とした「バーチャルクラスルーム360」というシステムをベースに本プログラムに特化したシステムを3月に構築し試用を開始した。本システムは教員と学生がリアルタイムで発話して相互に交流することが可能であるため、学生のより高い教育効果を得られることが今後期待できる。

2. 交流学生数の実績等【(1)と(2)は各3ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

① 日本人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2			4 人	7 人	12 人	12 人	12 人
単位取得を伴う派遣学生数			0 人	3 人	8 人	8 人	8 人
	30日未満	A (学部生)	0 人	0 人	5 人	5 人	5 人
	30日以上3ヶ月未満						
	3ヶ月以上	B (大学院生)	0 人	3 人	3 人	3 人	3 人
上記以外の派遣学生数			4 人	4 人	4 人	4 人	4 人
	30日未満	A (学部生)	4 人	4 人	4 人	4 人	4 人
	30日以上3ヶ月未満						
	3ヶ月以上						

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う派遣学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満						
	30日以上3ヶ月未満						
	3ヶ月以上						
上記以外の派遣学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満						
	30日以上3ヶ月未満						
	3ヶ月以上						

●合計人数

			2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (A=小計1+2)			4 人	7 人	12 人	12 人	12 人
単位取得を伴う派遣学生数			0 人	3 人	8 人	8 人	8 人
	30日未満		0 人	0 人	5 人	5 人	5 人
	30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上		0 人	3 人	3 人	3 人	3 人
上記以外の派遣学生数			4 人	4 人	4 人	4 人	4 人
	30日未満		4 人	4 人	4 人	4 人	4 人
	30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

② 日本人学生数の実績

		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (B=実渡航+オンライン+ハイブリッド)			12 人	0 人	0 人	0 人	0 人
実渡航	オンライン	ハイブリッド	12人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う派遣学生数			6 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満	A (学部生)	6 人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人
上記以外の派遣学生数			6 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満	A (学部生)	6 人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人
達成目標に対する 実績の割合 (B/A)			300.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

③ 交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

長崎大学12名、ケニア大学3名、マセノ大学3名、ジョモケニヤッタ農工大学3名、及び、ケニア中央医学研究所大学院3名が参加し、2021年2月15日から26日にかけて8日間15コマのオンライン交流プログラムを実施した。

当初、ケニア側連携大学・機関から1名ずつ計4名の学生に対して、4名の日本人学生をマッチさせ、8名で交流する予定であったが、ケニア側の強い要望により急遽、履修生を増員し交流することになった。結果、ケニア人学生12名、日本人学生12名、計24人でのオンラインプログラム実施となり、全体でのディスカッションなどはより多くの観点から活発な意見交換が可能となった一方、ベアワークでは講師の目が行き届かない面も見られた。今年度の挑戦を踏まえ、2021年度以降の実施に向けて、オンラインによる質の高い交流プログラムを実施するための最適な履修人数を検討する必要がある。質を担保するために人数を制限する場合は、開講回数を増やすことなども検討し、希望する学生ができるだけ多く履修できるような体制を整えていきたい。

本プログラム修了者には修了証を授与し、本学の参加者が所属するいくつかの学部において所属学部の科目として単位が付与された。

【特に優れた取組】

2月に実施したオンライン交流プログラムでは、ケニア側連携先および学生からの強い要望により、派遣学生数を達成目標の3倍に増員して交流を実施した。結果として、本学の様々な学部・研究科から広く履修生が集い、大学全体として部局を超えた広がりのある交流を実施することが可能となった。大学全体の取り組みとしての認知も高まり、いくつかの学部において、本交流プログラムに参加することで所属学部の科目として単位を付与する仕組みを構築することができた。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

① 外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計3		4 人	8 人	12 人	12 人	12 人
単位取得を伴う受入学生数		0 人	4 人	8 人	8 人	8 人
30日未満	A (学部生)	0 人	0 人	4 人	4 人	4 人
30日以上3ヶ月未満						
3ヶ月以上	B (大学院生)	0 人	4 人	4 人	4 人	4 人
上記以外の受入学生数		4 人	4 人	4 人	4 人	4 人
30日未満	A (学部生)	4 人	4 人	4 人	4 人	4 人
30日以上3ヶ月未満						
3ヶ月以上						

●海外相手大学追加調査分

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計4		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う受入学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日未満						
30日以上3ヶ月未満						
3ヶ月以上						
上記以外の受入学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日未満						
30日以上3ヶ月未満						
3ヶ月以上						

●合計人数

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (C=小計3+4)		4 人	8 人	12 人	12 人	12 人
単位取得を伴う受入学生数		0 人	4 人	8 人	8 人	8 人
30日未満		0 人	0 人	4 人	4 人	4 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
3ヶ月以上		0 人	4 人	4 人	4 人	4 人
上記以外の受入学生数		4 人	4 人	4 人	4 人	4 人
30日未満		4 人	4 人	4 人	4 人	4 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

② 外国人学生数の実績

		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (D)			12 人	0 人	0 人	0 人	0 人
実渡航	オンライン	ハイブリッド	12人	0人	0人	0人	0人
単位取得を伴う受入学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人
上記以外の受入学生数			12 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満	A (学部生)	12 人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合 (D/C)			300.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

以下内訳：
・学部生9名
・大学院生3名

③ 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

長崎大学12名、ケニヤッタ大学3名、マセノ大学3名、ジョモケニヤッタ農工大学3名、ケニア中央医学研究所大学院3名が参加し、2021年2月15日から26日にかけて8日間15コマのオンライン交流プログラムを実施した。

当初、ケニア側連携大学・機関から1名ずつ計4名の学生に対して、4名の日本人学生をマッチさせ、8名で交流する予定であったが、ケニア側の強い要望により急速、履修生を3倍に増員し交流プログラムを実施した。実施期間中、ケニアではCOVID-19の感染状況が悪化し、大学が閉鎖されている状況であった。このため、各家庭でオンライン授業を受けるための環境が整っていないことを考慮して、受講生全員を長崎大学ケニア拠点事務所に集め、パソコンやヘッドセット、インターネットブロードバンドなど必要な環境を提供しての実施となった。12名の学生を事務所に集めて実施では、声の干渉を避けるため、また三密を避けるための十分なスペース確保がやや困難であった。今年度の挑戦を踏まえ、現地の状況も懸案しながら、来年度以降の最適な実施人数を検討していきたい。また、プログラム受講生からは、今後、短期研修プログラムや長期研修プログラムにも挑戦して、プラネタリーヘルスに貢献できる研究活動へ進みたい、というメールが届いている。

本プログラム修了者には修了証を授与した。本プログラムの修了者に対して、ケニア側連携大学・機関からの単位付与は行われていない。1月に開催した第1回PHASEプログラム日ケ運営委員において、ケニア側連携大学・機関との学生交流に向けた協議を開始した。今後さらに、ケニアにおける単位付与・単位互換についての議論を進める予定である。

【特に優れた取組】

2月に実施したオンライン交流プログラムでは、派遣学生数を達成目標の3倍に増員し日ケの学生をペアにして活動することにより、より多くの観点からの交流を可能とした。また、本プログラム修了者には修了証を授与した。
将来的な単位付与・単位互換に向けて、第1回PHASEプログラム日ケ運営委員会において、ケニア側連携大学・機関との協議を開始した。

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数									1	1

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 大学】

相手大学名	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ケニア中央医学研究所 (KEMRI)	認定者数					1
	認定単位数					2
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	1
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	2

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 大学】

相手大学名	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和2年度採択）

令和3年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	東京農業大学			
主たる交流先	アフリカ諸国	タンザニア、ケニア		
事業名	【和文】	アフリカの栄養改善活動をフィールドとする協働実践型教育プログラム		
	【英文】	Project-based Collaborative Education Program focusing on Nutrition Improvement in Africa		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏名)	三原真智人	(所属・職名) グローバル連携センター長 教授	
	(交替年月日)	令和3年4月1日		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用				
http://tenkai.nodai.ac.jp/				

1. 取組内容の進捗状況

本事業における2020年度の取組内容について記入してください。

(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

事業専任教員および事務員の採用、事業立上げに向けたソコイネ農大(SUA)およびジョモケニヤッタ農工大(JKUAT)との連絡調整、事業広報に取り組んだ。また、コロナウイルス感染症の影響により渡航を伴う学生交流は実施できず、キックオフシンポジウム、学生交流、事業説明会、African Café等を全てオンラインで実施した。更に、参画大学間のコーディネーター会議を定例化させ、次年度以降の長期派遣・受入、(短期受入プログラムの一部として実施予定の)世界学生サミット、各プログラム内容、学生選考方法等に係る協議を行った。

【特に優れた取組】

本事業について広く周知し、関係者の協力を得る目的で、3月上旬にキックオフシンポジウムを開催した。本学、SUA、JKUATの関係者のみならず、在タンザニア・ケニアの日本大使館およびJICA事務所、駐日タンザニア・ケニア大使館等、関係機関も含め計179名の参加があり、目的を達成することができた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

長期受入に向け英語専門科目および受入研究室リストを共有した。なお、両校とも他大学との単位互換制度を有していないため、本事業参加の認定方法を協議したところ、JKUATは長期留学を卒業要件に含まれる「インターンシップ」として認定する方針となり、SUAにおいても先方学内での協議が継続されている。また、日本学生支援機構方式GPA換算方法を両校に説明し、本学の受け入れ基準を満たす学生の選出を開始した。なお、本学が後学期から派遣を予定している学生の選考は終了し、各校への推薦も完了している。

【特に優れた取組】

2021年1月に実施したキックオフミーティングを皮切りに、事業概要やプログラムの詳細実施工程について協議を重ねた。受入・派遣の諸条件を取りまとめ3月にJKUATとStudent Exchange Agreementを締結し、SUAとは2021年7月までの締結に向けて最終調整を行っている。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本学学生対象African Caféを2月に3回開催し延べ168人の参加を得た。African Caféではアフリカに縁のある講演者を迎え、アフリカの課題や魅力を学び、理解を深める機会を提供した。また、本学と各協定校学生とがオンラインで交流するOnline Exchangeを3月に2回開催し延べ194名(うち本学学生20名、SUA72名、JKUAT102名)の参加を得た。Online Exchangeでは小グループセッションを設け、学生が直接対話する機会とした。また、本学学生の派遣に向け、各校における感染症対策の確認、現地JICA事務所からのヒアリング、危機管理専門日本アイラック社から情報収集を行い派遣基準等の見直し、指定海外旅行保険加入の義務付けなどの準備を行った。派遣前には日本アイラック社によるオリエンテーションを実施する予定で同社と内容を協議している。

【特に優れた取組】

本学学生対象のAfrican Café、全参画大学学生対象のOnline Exchangeを開催し、互いの国の理解を深める機会を創出した。Online Exchangeは、本学学生にとっては、英語でのコミュニケーション力を鍛える機会ともなった。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本事業専用ウェブサイト(英・日)および電子版リーフレットを作成した。またSNSツール(LINE, Twitter, Instagram)を活用し情報発信強化を図った。

【特に優れた取組】

各協定校向けに実施したオンライン事業説明会、Online Exchangeには、各校それぞれ300を超える学生から申し込みがあり、両校学生の事業への関心の高さが伺えた。オンラインツールを駆使した情報発信に努めたことで、各協定校学生と本学が直接つながることが可能となり、よりスムーズな情報発信ができる基盤ができた。

(2) 特記すべき成果

令和2年度交流実績としてカウントはできなかったが、キックオフシンポジウムには計179名、Online Exchangeには計194名もの参加を得ることができた。幅広い層の学生の参画を得ることができたことは大きな成果である。

(3) オンラインを活用した工夫・改善点

参画大学の学生を対象に事業の説明会を行った際、参加登録人数がZoomの許容人数を上回ったため、YouTubeのLive Streaming機能を併用した。実際の参加者数は許容人数範囲内だったが、インターネット環境が安定しておらずZoomに入室できなかった学生はYouTubeから視聴・コメントすることができた。また、オンライン交流プログラムについて、事前に定員を設定し、参画校のコーディネーターが参加者を選定することにより、参加人数の把握と安定したネット環境からの参加者の確保を図り、より円滑な交流会の実施を目指している。

2. 交流学生数の実績等【(1)と(2)は各3ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

① 日本人学生数の達成目標

●申請時の計画調査記載人数

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2		10 人	51 人	51 人	51 人	51 人
単位取得を伴う派遣学生数		0 人	17 人	17 人	17 人	17 人
30日未満		0 人	15 人	15 人	15 人	15 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
3ヶ月以上		0 人	2 人	2 人	2 人	2 人
上記以外の派遣学生数		10 人	34 人	34 人	34 人	34 人
30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日以上3ヶ月未満		10 人	34 人	34 人	34 人	34 人
3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●海外相手大学追加調査分

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う派遣学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日未満		人	人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
3ヶ月以上		人	人	人	人	人
上記以外の派遣学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日未満		人	人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
3ヶ月以上		人	人	人	人	人

●合計人数

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (A=小計1+2)		10 人	51 人	51 人	51 人	51 人
単位取得を伴う派遣学生数		0 人	17 人	17 人	17 人	17 人
30日未満		0 人	15 人	15 人	15 人	15 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
3ヶ月以上		0 人	2 人	2 人	2 人	2 人
上記以外の派遣学生数		10 人	34 人	34 人	34 人	34 人
30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日以上3ヶ月未満		10 人	34 人	34 人	34 人	34 人
3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

② 日本人学生数の実績

		学生別			2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合計人数 (B=実渡航+オンライン+ハイブリッド)					0人			0人			0人			0人			TRUE人		
単位取得を伴う派遣学生数					0人			0人			0人			0人			0人		
30日未満					0人			人			人			人			人		
30日以上3ヶ月未満					0人			人			人			人			人		
3ヶ月以上					0人			人			人			人			人		
上記以外の派遣学生数					0人			0人			0人			0人			0人		
30日未満					0人			人			人			人			人		
30日以上3ヶ月未満					0人			人			人			人			人		
3ヶ月以上					0人			人			人			人			人		
達成目標に対する 実績の割合 (B/A)					0.0%			0.0%			0.0%			0.0%			2.0%		

③ 交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

本事業の開始を周知する目的で開催されたキックオフシンポジウム、本学学生を対象とした「アフリカンカフェ」（計3回）、本学の学生と両参画校の学生が参加したオンライン交流会および説明会（計2回）など、2020年度に実施したオンラインプログラムには合計447名の学生が参加した。
 オンライン交流プログラムの実績確認 どのオンラインプログラムも双方向性の確保や大学間の事前協議は行ったものの、受講修了証等の証明書類を出さなかったため実績値としてカウントできないものがない。今後の対応策としては、受講修了証を提供するに適した構成、コンテンツを検討し、オンラインプログラムの再構築を試みる。

【特に優れた取組】

3月に各参画校と行ったオンライン交流プログラムには、それぞれ80名を超える学生が参加した。定員に達し参加できなかった学生も、YouTubeでのライブストリーミングを視聴し、チャット機能により積極的に参加した。実績数にはカウントされないが、2021年度もオンラインでの交流会を引き続き開催している。

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

① 外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調査記載人数

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計3		10 人	33 人	33 人	33 人	33 人
単位取得を伴う受入学生数		0 人	11 人	11 人	11 人	11 人
30日未満		0 人	7 人	7 人	7 人	7 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
3ヶ月以上		0 人	4 人	4 人	4 人	4 人
上記以外の受入学生数		10 人	22 人	22 人	22 人	22 人
30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日以上3ヶ月未満		10 人	22 人	22 人	22 人	22 人
3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●海外相手大学追加調査分

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計4		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う受入学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日未満		人	人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
3ヶ月以上		人	人	人	人	人
上記以外の受入学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日未満		人	人	人	人	人
30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
3ヶ月以上		人	人	人	人	人

●合計人数

学生別		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (C=小計3+4)		10 人	33 人	33 人	33 人	33 人
単位取得を伴う受入学生数		0 人	11 人	11 人	11 人	11 人
30日未満		0 人	7 人	7 人	7 人	7 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
3ヶ月以上		0 人	4 人	4 人	4 人	4 人
上記以外の受入学生数		10 人	22 人	22 人	22 人	22 人
30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日以上3ヶ月未満		10 人	22 人	22 人	22 人	22 人
3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

② 外国人学生数の実績

			学生別		2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
			合計人数 (D)		0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0	人	0
実渡航	オンライン	ハイブリッド			0人		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
単位取得を伴う受入学生数					0人		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	30日未満				0人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	30日以上3ヶ月未満				0人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	3ヶ月以上				0人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
上記以外の受入学生数					0人		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	30日未満				0人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	30日以上3ヶ月未満				0人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	3ヶ月以上				0人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
達成目標に対する実績の割合 (D/C)					0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		

③ 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

交流プログラム（派遣）同様、アフリカ人学生を対象者にも含むオンライン交流プログラムを実施したが、双方向性の確保や大学間の事前協議は行ったものの、受講修了証等の証明書類を出さなかったため実績値としてカウントできるものがない。今後の対応策としては、修了証等の証明書類を出すのに適したコンテンツの企画、また特にアフリカ人学生を対象としたプログラムの企画を予定している。

【特に優れた取組】

(3) その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2020年2月	アフリカン・カフェ（全3回）	168 人
2020年3月	キックオフシンポジウム	179 人
2020年3月	オンライン交流プログラム（全2回）	194 人
		人

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	0	0	2	2	2	2	2	2	8	8

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：東京農業大学】

相手大学名	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ソコイネ農業大学	認定者数		1	1	1	1
	認定単位数		4	8	8	8
ジョモケニヤッタ農工大学	認定者数		1	1	1	1
	認定単位数		4	8	8	8
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	2	2	2	2
年度別認定単位数合計		0	8	16	16	16

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：東京農業大学】

相手大学名	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ソコイネ農業大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
ジョモケニヤッタ農工大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和2年度採択）

令和3年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	○京都大学、東京外国語大学			
主たる交流先	アフリカ諸国	アジスアベバ大学（エチオピア）、カイロ大学（エジプト）、ジョモケニアッタ農工大学（ケニア）、マケレレ大学（ウガンダ）、ソコイネ農業大学（タンザニア）、キンシャサ大学（コンゴ民）、プロテスタント人文・社会科学大学（ルワンダ）、ガーナ大学（ガーナ）、ヤウンデ大学（カメルーン）、アンタナナリボ大学（マダガスカル）、ザンビア大学（ザンビア）、ボツワナ大学（ボツワナ）、プレトリア大学（南アフリカ）、ステレンボッシュ大学（南アフリカ）		
事業名	【和文】	アフリカにおけるSDGs に向けた高度イノベーション人材育成のための国際連携教育プログラム		
	【英文】	Innovative Africa: Educational Networking Programs for Human Resource Development in Africa's SDGs		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	重田 真義	(所属・職名) 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科・研究科長	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
13				
14				
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用				
https://iafp.africa.kyoto-u.ac.jp				
http://www.tufs.ac.jp/iafp/				

1. 取組内容の進捗状況

本事業における2020年度の取組内容について記入してください。
(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望
①交流プログラムの内容 ・関連事業によってプロテスタント人文・社会科学大学(ルワンダ)から2名の学生を受け入れ、オンラインで2020年度冬季短期集中プログラム(日本語集中授業[初級・中級]、日本語文化理解・交流オンラインツアー[広島・暁想・沖縄])を実施した。 ・2021年3月19日に国際合同コンフェレンスを京都大学がオンラインで開催し、計13カ国14大学から79名が参加した。アフリカの7カ国7大学から選抜された8名と、京都大学の3名の大学院生がアフリカのSDGsに関する多様な研究内容について発表し、討議を行った。発表者について、一定の基準を満たすと認められた学生にCertificateを授与した。 ・2021年3月25日に国際合同コンフェレンスを東京外国語大学がオンラインで開催し、アフリカと日本から70名以上が参加した。アフリカ大学紹介、東京外大への留学学生による体験発表を実施し、東京外大学生20名、アフリカからの学生6名の体験記を冊子化し活用、またWeb上で広く公開した。これまでの交換留学における取り組みを確認し、より効果的な本事業の展開方法の示唆を得た。
【特に優れた取組】 2件の国際合同コンフェレンスにアフリカの13カ国14大学を含む合計150名ほどがオンラインで参加したことで、オンラインならではの大規模・多国間による交流を実現することができた。関連事業によって2名の学生をアフリカから受け入れ、オンラインで冬季集中プログラムに参加させ、単位を付与した。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 ・アフリカの14大学の内13大学と連絡を開始し、学生交流協定の締結に向けた協議を開始した。5大学と、協定校別の学生交流の説明会を順次実施した。これにより、担当者間の連携が強化され、事業計画を深化させることができた。
【特に優れた取組】 13大学との大学別協議において、学生交流協定の締結と大学間協定に基づく単位互換制度について、積極的に推進していくことを相互に再確認した。ステレンボッシュ大学(南アフリカ)と新たに国際学術交流協定を締結した。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 ・本事業の事務局担当者として、京都大学において本事業専任の時間雇用研究員を3名、事務補佐員を1名、および東京外国語大学では本事業専任の特任助教(コーディネーター)を1名、事務を補佐する特定専門職員を1名採用した。 ・京都大学および東京外国語大学内に事務局機能を有する場所を設置したことで、学内の他部局に渡る関係教員の連携が強化され、複数の部局にて派遣・受入される学生の連絡・相談窓口として学生を支援する体制を整えることができた。遠隔教育用情報機器の整備により、派遣・受入後の学生の教育を円滑に実施するための基盤を整備した。
【特に優れた取組】 受入学生に対しては、保険加入等の事務手続きの個別サポートを行った。また、派遣学生に対しては、危機管理費及び危機管理体制の案内等、危機対応に関する情報提供を行った。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 ・本事業の情報を集約したウェブサイトの日英で開設し、SNSを積極的に活用しつつ、国内外の日ア学生交流に関係するステークホルダーへの情報の公開と国際合同コンフェレンス等の本事業の成果の発信・普及に努めている。 ・アフリカでの研究経験があり、英、仏、あるいは現地語の高い運用能力を有するスタッフを雇用し、現地向けの情報発信力を強化した。 ・本事業を通じてアフリカのパートナー大学13校との協力関係を進化させた。 ・京都大学のアフリカオフィス(エチオピア)および東京外国語大学のGlobal Japan Office(南アフリカ)及びGlobal Japan Desk(ルワンダ)と連携し、今後の事業の実施体制を整えた。
【特に優れた取組】 受入学生向けに実施した冬季短期集中プログラム(日本語集中授業、日本語文化理解・交流ツアー)には、アフリカからの留学生の他、多国籍な大学院生・学部生が参加した。日本語を母語とする学生は、日本語集中授業では会話の練習相手を務めるなど、学生同士の交流が促進され、授業の枠組みを超えた学習環境の国際化に貢献した。
(2) 特記すべき成果 オンラインで実施した国際合同コンフェレンスでは、発表課題に関連する留学の問い合わせを受けるなど、次年度以降の留学への動機づけの場として、大きな意義があった。また、発表希望者が多数だったため、次年度は開催回数を増やすことで、さらなる交流の発展が期待できる。オンラインで実施した冬季短期集中プログラム(日本語集中授業、日本語文化理解・交流ツアー)には延べ40名が参加した。事業コーディネーターと日本人学生がワーキンググループを形成し学生主導でプログラムを企画・運営した日本語文化理解・交流ツアーでは、アフリカからの留学生を含む多国籍の参加者に迎えたことで、多様な文化をバックグラウンドに持つ参加者が互いに学びを深めることができるプログラムとなり、コロナ禍における留学の可能性を確認することができた。
(3) オンラインを活用した工夫・改善点 ・合計150名ほどが13カ国14大学から参加した2回のオンライン国際合同コンフェレンスや、留学生向けのオンラインでの冬季短期集中プログラムを実施し、実渡航が困難な学生や教員等が多数参加した。国際合同コンフェレンスではアフリカとの時差を考慮し夕方からの開催とした。2回の内1回の国際合同コンフェレンスでは、一定の基準を満たした会議での発表者にCertificateを授与した。冬季短期集中プログラムでは、ブレイクアウトセッションを多用し、リアルタイムのディスカッションを通じて交流や学びを促した。

2. 交流学生数の実績等【(1)と(2)は各3ページ以内】

(1) 本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

① 日本人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2			0 人	12 人	16 人	16 人	16 人
単位取得を伴う派遣学生数			0 人	3 人	3 人	4 人	4 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上	A (学部生)	0 人	3 人	3 人	4 人	4 人
上記以外の派遣学生数			0 人	9 人	13 人	12 人	12 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満	B (大学院生)	0 人	9 人	13 人	12 人	12 人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調書分

		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計2			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う派遣学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人
上記以外の派遣学生数			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日未満		人	人	人	人	人
	30日以上3ヶ月未満		人	人	人	人	人
	3ヶ月以上		人	人	人	人	人

●合計人数

			2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (A=小計1+2)			0 人	12 人	16 人	16 人	16 人
単位取得を伴う派遣学生数			0 人	3 人	3 人	4 人	4 人
	30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	3ヶ月以上		0 人	3 人	3 人	4 人	4 人
上記以外の派遣学生数			0 人	9 人	13 人	12 人	12 人
	30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	30日以上3ヶ月未満		0 人	9 人	13 人	12 人	12 人
	3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

② 日本人学生数の実績

		学生別	2020年度			2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
合計人数 (B=実渡航+オンライン+ハイブリッド)			0 人			0 人			0 人			0 人			0 人		
実渡航	オンライン	ハイブリッド	0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
単位取得を伴う派遣学生数			0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	30日未満		人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	30日以上3ヶ月未満		人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	3ヶ月以上	A (学部生)	0人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
上記以外の派遣学生数			0人			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	30日未満		人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	30日以上3ヶ月未満	B (大学院生)	0人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	3ヶ月以上		人			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
達成目標に対する 実績の割合 (B/A)						0.0%			0.0%			0.0%			0.0%		

③ 交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

特になし

【特に優れた取組】

特になし

(2) 本事業において受け入れる外国人学生数の推移

① 外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計3		2 人	10 人	16 人	16 人	16 人
単位取得を伴う受入学生数		2 人	3 人	4 人	4 人	4 人
30日未満						
30日以上3ヶ月未満						
3ヶ月以上	A (学部生)	2 人	3 人	4 人	4 人	4 人
上記以外の受入学生数		0 人	7 人	12 人	12 人	12 人
30日未満						
30日以上3ヶ月未満	B (大学院生)	0 人	7 人	12 人	12 人	12 人
3ヶ月以上						

●海外相手大学追加調書分

	学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
小計4		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う受入学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日未満						
30日以上3ヶ月未満						
3ヶ月以上						
上記以外の受入学生数		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日未満						
30日以上3ヶ月未満						
3ヶ月以上						

●合計人数

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合計人数 (C=小計3+4)		2 人	10 人	16 人	16 人	16 人
単位取得を伴う受入学生数		2 人	3 人	4 人	4 人	4 人
30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
3ヶ月以上		2 人	3 人	4 人	4 人	4 人
上記以外の受入学生数		0 人	7 人	12 人	12 人	12 人
30日未満		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
30日以上3ヶ月未満		0 人	7 人	12 人	12 人	12 人
3ヶ月以上		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

② 外国人学生数の実績

		学生別	2020年度		2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合		
合計人数 (D)			2人		0人		0人		0人		0人		0人		0人	
実渡航	オンライン	ハイブリッド	2人		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
単位取得を伴う受入学生数			2人		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	30日未満		人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	30日以上3ヶ月未満		人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	3ヶ月以上	A (学部生)	2人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
上記以外の受入学生数			0人		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	30日未満		人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	30日以上3ヶ月未満		人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
	3ヶ月以上	B (大学院生)	0人		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
達成目標に対する実績の割合 (D/C)			100.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	

③ 交流プログラム (受入) の進捗状況のコメント

・東京外国語大学では、プロテスタント人文・社会科学大学 (ルワンダ) から来日済みであった2名の留学生を、本事業で受け入れた。2名の学生は、オンラインで交換留学生向けプログラムを受講して単位を取得したほか、学内で開講している日本語授業や冬季短期集中プログラムもオンラインで受講し、日本語初級1レベルの合格に向けて日本語能力を向上させることができた。

【特に優れた取組】

・冬季短期集中プログラム (日本語集中授業 [初級・中級]、日本語文化理解・交流オンラインツアー [広島・瞑想・沖縄]) を実施し、受入学生2名のほか、東京外大生が延べ40名参加し、ディスカッションを通じて各テーマへの理解と、学生との交流を深める機会とすることができた。

(3) その他 (上記 (1)・(2) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム 特になし

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	0	0	0	2	4	4	8	8	9	10

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：京都大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
			認定者数	B (大学院生)	0	0	2
アディスアベバ大学	認定単位数	B (大学院生)	0	0	4	4	4
マケレレ大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	1	1
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	2	2
ソコイネ農業大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	0	0
ジョモケニアアッタ農工大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	1	1
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	2	2
ガーナ大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	1	1
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	2	2
ヤウンデ第1大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	0	0
アンタナナリヴ大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	0	1
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	0	2
ザンビア大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	1	1	1
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	2	2	2
ボツワナ大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	0	0
キンシャサ大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	0	0
カイロ大学	認定者数	B (大学院生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	B (大学院生)	0	0	0	0	0
年度別認定者数合計			0	0	3	6	7
年度別認定単位数合計			0	0	6	12	14

【2020年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：京都大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
			認定者数	B (大学院生)	0		
アディスアベバ大学	認定単位数	B (大学院生)	0				
マケレレ大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
ソコイネ農業大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
ジョモケニアアッタ農工大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
ガーナ大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
ヤウンデ第1大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
アンタナナリヴ大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
ザンビア大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
ボツワナ大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
キンシャサ大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
カイロ大学	認定者数	B (大学院生)	0				
	認定単位数	B (大学院生)	0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名：東京外国語大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ガーナ大学	認定者数	A (学部生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	A (学部生)	0	0	0	0	0
ザンビア大学	認定者数	A (学部生)	0	0	0	0	1
	認定単位数	A (学部生)	0	0	0	0	6
プロテスタント人文・ 社会科学大学	認定者数	A (学部生)	0	0	2	1	1
	認定単位数	A (学部生)	0	0	12	6	6
プレトリア大学	認定者数	A (学部生)	0	0	1	1	1
	認定単位数	A (学部生)	0	0	6	6	6
ステレンボッシュ大学	認定者数	A (学部生)	0	0	0	1	1
	認定単位数	A (学部生)	0	0	0	6	6
年度別認定者数合計			0	0	3	3	4
年度別認定単位数合計			0	0	18	18	24

2. 国内連携大学 【大学名：東京外国語大学】

相手大学名		学生別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ガーナ大学	認定者数	A (学部生)	0				
	認定単位数	A (学部生)	0				
ザンビア大学	認定者数	A (学部生)	0				
	認定単位数	A (学部生)	0				
プロテスタント人文・ 社会科学大学	認定者数	A (学部生)	0				
	認定単位数	A (学部生)	0				
プレトリア大学	認定者数	A (学部生)	0				
	認定単位数	A (学部生)	0				
ステレンボッシュ大学	認定者数	A (学部生)	0				
	認定単位数	A (学部生)	0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和2年度採択）

令和3年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	京都大学、東京外国語大学		
主たる交流先	アフリカ諸国	アジスアベバ大学（エチオピア）、カイロ大学（エジプト）、ジョモケニアッタ農工大学（ケニア）、マケレレ大学（ウガンダ）、ソコイネ農業大学（タンザニア）、キンシャサ大学（コンゴ民）、プロテスタント人文・社会科学大学（ルワンダ）、ガーナ大学（ガーナ）、ヤウンデ大学（カメルーン）、アンタナリボ大学（マダガスカル）、ザンビア大学（ザンビア）、ボツワナ大学（ボツワナ）、プレトリア大学（南アフリカ）、ステレンボッシュ大学（南アフリカ）	
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏名）	重田 真義	（所属・職名） 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科・研究科長
	（交替年月日）		
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用			
https://iafp.africa.kyoto-u.ac.jp/			

1. 取組内容の進捗状況

本事業における <u>2020年度</u> の取組内容について記入してください。
(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望
プラットフォーム構築プログラムの内容
●取組の進捗状況
京都大学・東京外国語大学による2020年度の取組は、 <u>新型コロナウイルス感染症予防の渡航制限により教員・関係者の派遣受入を実現できなかったものの、今後の交流の基盤となる個々のプラットフォームの構築を行った。</u> まず、「 <u>日本アフリカ高度専門人材育成支援委員会（及び事業評価委員会）</u> 」設立のため計8機関の実務組織と個別にオンライン会合の場を設け、各組織より支援委員派遣の承諾を正式に得た。実務組織は、省庁機関（JICA、JETRO）、産業界（日本経済団体連合会国際協力本部、豊田通商株式会社）、NPO（あしなが育英会）、国際機関（世界銀行、アフリカ開発銀行、国連開発計画）と幅広く、インターンシップの機会提供やアフリカ実務組織・大学交流会への参加についても協議した。
また、アフリカの大学との教育交流に関心のある国内大学間で連携するため、「 <u>第1回国内実施大学会議</u> 」をオンラインで開催した。世界展開力事業に採択された10大学による国際連携教育プログラムの内容を報告し、主要な実務機関とも育成する人材について意見交換を実施した。本会議には事業採択校以外の大学15校も参加し、採択校とのネットワーク化が実現し、非採択校を含む「国内大学ネットワーク」の構築に日本アフリカ大学連携ネットワークの全面的協力を得た。
日本とアフリカの <u>安全健康、生活、危機管理およびの情報データベース</u> の構築については、本事業独自のウェブサイトを2021年2月に開設し、その特設ページに次年度以降掲載するコンテンツの作成に着手した。アフリカ9大学と安全・生活・危機管理等の情報収集での協力の合意を得られ、今後、日本では入手し難いアフリカ現地の安全・生活・危機管理等の情報を収集できる体制を整えた。現在でも新型コロナウイルスの感染拡大に伴う海外渡航制限により、実質的・即応的な情報提供は行えておらず、在外公館、外務省海外安全情報、アメリカ疾病予防センターなどの安全・危機情報などをまとめて、暫定的に一般的情報を整理・発信した。また京都大学アフリカ地域研究資料センターは、アフリカの国別の安全・生活情報を記載した冊子を5カ国分発行しており、その情報をオンライン化しつつ、さらに現在のコロナ禍の状況についての新しい調査を開始した。外務省の海外渡航情報と連動するコンテンツを作成している。
<u>アフリカ主要大学情報のデータベース</u> についても同様に、上記ウェブサイトの特設ページに今後公開するアフリカ各国の主要大学の情報を収集している。まずは、京都大学と東京外国語大学が提携している協定校12大学について基礎情報を整備・体系化したうえで、随時ウェブで公開していく。
●現段階の課題と今後の展望
2020年度は教員及び関係者の渡航が実現しなかったこともあり、アフリカ側の提携校との連携や大学間交流を組織化出来なかった。今後はオンライン会議を通じて、京都大学と関係の深いアジスアベバ大学を中心にアフリカ側の提携校の組織化をはかり、国内実施大学会議への参加や、教育交流事業の質向上について意見交換を行う。
上述のアフリカ実務組織については、京都大学の事務局と個別に連絡・協力体制を築いているものの、国内他大学も含めた交流の場を設けていない。そのため2021年度は「アフリカ実務組織・大学交流会」を可能な限り対面で行うため、11月前後に第1回を開催する予定である。
なお、上述の2種類の情報データベースについては、既に情報収集・体系化を開始し、暫定的に一部発信しているが、2021年度は、他大学にとってもより有益かつ検索可能な形での公開に向けコンテンツの制作を急ぐ。
【特に優れた取組】
アフリカでの教育交流に関心を持つ国内大学間で連携するため、「 <u>第1回国内実施大学会議</u> 」をオンラインで開催し、 <u>世界展開力事業に採択された10大学に加え、実務組織2機関および採択校以外の大学15校から100名弱参加し、オールジャパン体制のネットワークを構築した。</u>
(2) 特記すべき成果
(1) の【特に優れた取組】と同じ
(3) オンラインを活用した工夫・改善点
国内外に関わらず、現状のコロナ禍では対面の会議が難しいことから、オンラインを活用したコミュニケーションの手段であるSlackをアフリカ世界展開力事業で2021年5月に開設した。Slackには非事業実施大学を含め13大学から35名が登録済みである(2021/6/7現在)。Slackを通じて、より日常的な情報交換を行い、京都大学の事務局がアフリカの現地事情について他大学から定期的に問合せを受け、登録者全員への情報共有を開始している。また、同じく上述の「第1回国内実施大学会議」の参加者を中心にメーリングリストを作成し、全10大学から37のメールアドレスを登録済み(一部はグループアドレスのため複数人に届く。2021/6/7現在)である。

2. 取組実績【(1)と(2)各1ページ以内】

(1) 日本とアフリカ諸国の大学間交流の推進に関する目標と実績											
【事業申請時の達成目標】						【2020年度末における目標の達成状況】					
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
(指標1) 日本アフリカ高度人材育成国内大学ネットワークへの新規の参加大学数	0	10	10	10	10	(指標1) 日本アフリカ高度人材育成国内大学ネットワークへの新規の参加大学数	25				
(指標2) アフリカ・日本大学間教育交流ミーティングへの新規の参加大学数	0	16	16	16	16	(指標2) アフリカ・日本大学間教育交流ミーティングへの新規の参加大学数	0				
(指標3) アフリカ実務組織・大学交流会への新規の参加組織・大学数	0	20	20	20	20	(指標3) アフリカ実務組織・大学交流会への新規の参加組織・大学数	0				
(指標4) アフリカ主要大学情報のデータベースに新規に掲載する新規の大学数	0	10	10	10	10	(指標4) アフリカ主要大学情報のデータベースに新規に掲載する新規の大学数	0				
(指標5) アフリカ各国安全健康・危機管理のデータベースへの新規掲載国数	0	5	5	5	5	(指標5) アフリカ各国安全健康・危機管理のデータベースへの新規掲載国数	0				

(2) 任意指標に関する目標と実績

【事業申請時の達成目標】

任意指標1. 日本及びアフリカの大学間のマッチング支援

プラットフォーム構築事業のアウトカムとして、本事業の助言・支援を契機とするマッチング（日本とアフリカの大学が教育交流に向けた協議を念頭に連絡をとり合うこと）をできる限り増やすことを目標とする。また実際の教育交流のプログラム構築及び協定締結にも助言・支援する。

任意指標2. 日本人・アフリカ人の留学経験者のキャリア形成の参考事例

日本人とアフリカ人の相互の地域での留学経験者が、実際にどのようなキャリアを重ねながら、両地域において社会的な活躍・貢献をしてきたかについて、できる限り学部卒、大学院修了の双方、また異なる学問分野ごとに情報を収集し、参考事例を公開する。期間全体でできる限り多くのキャリア形成の参考事例を収集し、ウェブサイトでの紹介を行う。

任意指標3. 実務組織の求める日本・アフリカの高度専門人材の具体的内容の収集・整理

日本の企業やNGO・NPO、国際協力機関等から、必要とされる持続可能な開発に貢献する日本及びアフリカの高度専門人材の具体的条件・内容と、そのために求められる高等教育のありかたについて、できる限り多くの意見を聴取し、体系的に整理し、公開する。

【2020年度末における目標の達成状況】

任意指標1. 日本及びアフリカの大学間のマッチング支援

本指標については、京都大学が個別にアフリカ側の提携大学と協議を開始した状況でとどまっており、2021年度より「アフリカ・日本大学間教育交流ミーティング」を通じてマッチングの機会を増やしていく。

任意指標2. 日本人・アフリカ人の留学経験者のキャリア形成の参考事例

ウェブサイト上の公開には至っていないものの、アフリカから京都大学に留学してきた大学院生の情報を「京都大学アフリカ同窓会」から取り寄せ、その後のキャリア形成や祖国での貢献について情報収集を開始した。またアフリカ開発銀行、豊田通商、一部のNGOには、日本で学び、アフリカで活躍しながらキャリア形成を進めている人材がいることがわかり、それらの情報を収集・整理することがこの指標関連の業務について有効であることが分かった。

任意指標3. 実務組織の求める日本・アフリカの高度専門人材の具体的内容の収集・整理

アフリカに関わらう実務組織（企業、国際機関、省庁機関、NGO・NPO等）とは、京都大学の事務局が個別にオンライン面談を開始し、必要とする高度専門人材について聴取した。なかでも、豊田通商のようにアフリカ各国に支社を持つ企業は、日ア双方の事情に精通する日本人及びアフリカ人双方の人材を求めていることがわかり、インターンシップ等を通じた人材育成においても積極的に協力頂けるとのことであった。